

**日本社会は、同調圧力が強く、周囲との違いをカミングアウトするのはとても難しい。
さらに、他者と違うことを本人自身が受け入れる際にも困難がともなう場合があります。**

- ▼ LGBTQがどの程度、存在するかはいくつかのweb調査によると、8%前後という結果が多い。
- ▼ その一方で、市民の意識を、住民台帳でサンプルされた調査（N=1,259）からみると、身近には感じていない。他人だったら許容する場合でも、身内だと非常にネガティブな反応を引き起こすことが示されています。

リアリティ 周囲に「同性愛者」/「性別を変えた人」が 1:いる、2:そうかもしれない人がいる、3:いないと思う、4:いない、5:無回答 のうち、1と2の合計%

同性愛者	20代：22.7%、30代：17.0%、40代：11.8%、50代：4.1%、60代：5.5%、70代：1.6%
性別を変えた人	20代：7.1%、30代：7.7%、40代：2.1%、50代：3.2%、60代：0.4%、70代：1.0%

嫌悪感 近所の人 / 職場の同僚 / きょうだい / 自分の子ども が「同性愛者」/「性別を変えた人」だった場合の嫌悪感
1:嫌だ、2:どちらかと言えば嫌だ、3:どちらかと言えば嫌でない、4:嫌でない、5:無回答」のうち、1と2の合計%

同性愛者	近所の人：39.4%、同僚：41.8%、きょうだい：66.9%、こども：72.4%
性別を変えた人	近所の人：35.2%、同僚：36.7%、きょうだい：65.6%、こども：70.2%

釜野さおり、石田仁、風間孝、吉仲崇、河口和也2016「性的マイノリティについての意識－2015年全国調査報告書」
科学研究費助成事業「日本におけるクィア・スタディーズの構築」研究グループ編(研究代表者 広島修道大学 河口和也)」編

- ▼ 生島らによる、ゲイ・バイセクシュアル男性、一部トランスジェンダーを対象した2017LASH調査(N=6921)によると、家庭のなかでのカミングアウトは2割弱(両親とも：8.5%、父のみ：0.9%、母のみ：8.1%)。
- ▼ 悩みがあっても親や教師に相談できない現状がある。LASH調査(15-19歳)回答を国民生活基礎のデータ（男性15-19）と比較。家族に相談、LASH:16.3%、国民基礎:55.0%と大きな差がある。教師も同様で、相談先がないという声も。
生島嗣ら、2017年度「MSM の薬物使用・不使用に関わる要因の調査（LASH調査）」厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支 援する研究」
- ▼ 個人的なことを、わざわざ言う必要がないという声も聞く。しかし、存在するのに認知されないという社会環境が自尊心や精神状態を害していると個人の過去の経験からも実感する。相談支援を通して、LGBTQはメンタル状態が悪めで孤立しがち。自傷、依存への逃避も起きている。見た目で判断せず、すでに共に暮らしていることを前提とした社会の実現を望む。